

昭和二年

(一)

地上はさびしい所であります。二河白道ではたった一人だと言うてあります。そして其のさびしい所にあらわれて来るものは善知識でありました。おぼあさんの手紙をよんで泣きました。あなた方の地上でたった一つの魂のよろこびは私にあらうことであり、仏の道を聞くことであるとは何とも言えぬ感じが致します。私たちはさめればさめるだけさめてくれない心を見ます。その心こそみ仏が抱いて泣いて下さる心です。二月のはじめには又戸河内に来るのですか。会いたい見たい。しかし会えば別れて帰るあなたの姿がいと美しい、遠い遠い夜の道を、何度私を泣かしたことでしよう。

念仏生活は決して楽なものではありません。私たちは仏だと思つては概念をつかんだり、偶像の前にひれ伏したりします。求めましょう。求めましょう。

他人の言い草や気がねに日を送つてはなりません。夫婦仲をよくして、どこまでも進みましょう。大会は多分三月です。雪が降つて寒いことでしょう。今度は自動車で来なさい。明日は能美島へゆく。

昭和二年一月二十四日 本部にて

平田屋様

住岡狂風